

第 63 回 理事会議事録 (書面議決)

一般社団法人 日本私立薬科大学協会第 63 回理事会に関し、当協会会長井上圭三は、理事に対し下記議案を提案し、7 月 8 日付で理事全員の同意を得たので本理事会の議決及び報告があったものとみなされた。

1. 日 時 令和 2 年 7 月 7 日 (火) 13 時 00 分～15 時 05 分
2. 場 所 Web 会議 (ZOOM システム) 日本私立薬科大学協会事務局
3. 出席者 理 事 中村 明弘 元木 和幸
井上 圭三 楠 文代
田中 芳夫 堅田 利明
越前 宏俊 灘井 雅行
後藤 直正 浜岡 純治
津田 裕子 宮田 興子
篠塚 和正 加留部善晴
監 事 富田 基郎 市川 厚

4. 議事の経過の要領及びその結果

小池事務局長から、本日は会長（議長）が選出されるまでの間、小池事務局長が議長となることについて提案があり承認された。また、本日の出席理事が 14 名であり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。また、議事録署名人として出席理事から、堅田理事を指名し、事務報告の後、直ちに議案の審議に入った。

(1) 会長（代表理事）の選出について

会長（代表理事）選挙の結果、井上圭三理事（帝京大学理事・副学長）が選出された。

(2) 副会長の選出について

副会長選挙の結果、法人側から楠 文代理事（東京薬科大学理事長）、大学側から後藤直正理事（京都薬科大学学長）が選出された。

次いで、会長選出後、井上会長が議長に就任した。

(3) 前回議事録の確認について

前回議事録（第 62 回理事会：令和 2 年 6 月 2 日開催）について、全会一致でこれを承認した。

(4) 会長指名理事・常務理事・参与及び各種委員会委員の選任について

1) 会長指名理事の選任について

井上会長から、資料 3 に基づき定款第 20 条第 1 項に基づく会長指名理事として下記の者について諮り、これを選任した。

亀 井 美和子（帝京平成大学薬学部長）

2) 常務理事の選任について

井上会長から、資料 3 に基づき定款第 20 条第 5 項に基づく常務理事として下記の 4 氏を指名し、これを選任した。

中 村 明 弘（昭和大学）

灘 井 雅 行（名城大学）

浜 岡 純 治（大阪薬科大学）

加留部 善 晴（福岡大学）

3) 参与の委嘱について

井上会長から、資料 3 に基づき定款第 26 条に基づく参与として下記の者について諮り、これを委嘱することとした。

乾 賢 一（京都薬科大学名誉教授・客員教授）

本 間 浩（薬学教育協議会代表理事）

4) 各種委員会委員の委嘱について

井上会長から、資料 3 に基づき各種委員会委員として下記のとおり委嘱することとした。（理事以外の委員は所属大学を表記）

広報誌編集委員会

委員長 井 上 圭 三

委 員 後 藤 直 正

〃 中 村 明 弘

〃 田 中 芳 夫

〃 亀 井 美和子

〃 小佐野 博 史（帝京大学 教授）

〃 大 津 史 子（名城大学 教授）

教育賞受賞者選考委員会

委員長 井 上 圭 三
委員 後 藤 直 正
〃 楠 文 代
〃 中 村 明 弘
〃 田 中 芳 夫

薬剤師国家試験問題検討委員会

委員長 中 村 明 弘
委員 田 中 芳 夫
〃 堅 田 利 明
〃 篠 塚 和 正
〃 亀 井 美和子

学校法人問題検討委員会

委員長 楠 文 代
委員 浜 岡 純 治
〃 加留部 善 晴
〃 元 木 和 幸
〃 津 田 裕 子

教育研究問題検討委員会

委員長 加留部 善 晴
委員 中 村 明 弘
〃 灘 井 雅 行
〃 田 中 芳 夫
〃 越 前 宏 俊
〃 宮 田 興 子

実務実習検討委員会

委員長 後 藤 直 正
委員 灘 井 雅 行
〃 堅 田 利 明
〃 篠 塚 和 正
〃 亀 井 美和子

定員問題検討委員会

委員長 浜 岡 純 治
委員 元 木 和 幸
〃 立 花 貞 司
〃 津 田 裕 子

共用試験検討委員会

委員長 中村明弘
委員 堅田利明
〃 篠塚和正
〃 亀井美和子

第三者評価検討委員会

委員長 井上圭三
委員 中村明弘
〃 堅田利明
〃 越前宏俊
〃 津田裕子

就職問題検討委員会

委員長 後藤直正
委員 灘井雅行
〃 越前宏俊
〃 宮田興子

協会だより編集委員会

委員長 灘井雅行
委員 楠文代
〃 宮田興子

(5) 令和2年度教育賞受賞候補者の推薦について

井上会長から、資料4に基づき本年度の推薦方法について

- ① 規程第4条第1項「協会の議決権を有する者からの推薦」は例年どおり大学へ推薦を依頼する。
- ② 規程第4条第2項「特定の事業等に特に功績があった者については、協会の各種委員会の委員長が推薦できるものとする」については、特定の委員会による推薦があった場合は受け付ける。

以上の提案について協議の結果、これを了承した。

(6) 第105回薬剤師国家試験問題検討委員会について

中村理事（薬剤師国家試験問題検討委員会委員長）から、資料5に基づき第105回薬剤師国家試験問題の検討結果について以下の報告があった。また、本報告書については、井上会長名で厚生労働省、文部科学省へ報告する旨説明があった。

- ① 7つの全出題領域にわたって、基礎的内容を問う問題から読解力、思考力・応用力を要する問題までバランスよく出題されていたと評価され、「構造式から判断するもの、図表のデータの解釈が必要なものと多様性があり、単に知識に頼るだけでないよく工夫された問題」「暗記だけでは解答のできない分野横断的な総合知識が求められる問題」「薬剤師としての資質を問うような実践的で論理力を必要とする問題」が多く出題されていた。
- ② 連問形式の理論問題は、薬学の総合的理解を問う良問として前回同様高く評価され、また、実践問題についても複合性の改善を評価する意見が集まった。
- ③ 一方で、出題内容の誤り、出題分野の偏り・重複、薬剤師国家試験としての妥当性への疑問、受験生を惑わす不明瞭な表現、不自然・非現実的な状況設定、複合問題における正答の連動、不要な情報を含むリード文等、問題点と改善に向けた提案が部会報告書にまとめられている。
- ④ 「薬剤師実務において領域間の違いは明確でなく、領域別に振り分けて出題することに限界がある」と出題領域に関する問題点を指摘する新たな意見があった。

(7) 学生入学定員の遵守について

井上会長から、資料6に基づき令和2年度入学定員の1.1倍を超えて学生を受け入れた2大学から提出された超過理由等の報告があり、これを了承した。今後も全大学が入学定員の遵守に取り組むことを確認した。

(8) その他

(1) 文部科学省委託費に関する検討状況について

井上会長から、文部科学省委託事業「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究『薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査研究(令和元年～3年度)』」が当協会を委託先として薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年改訂版)の次期改訂に向けた課題整理を行っている。各大学には、本事業への理解とアンケート調査、ワークショップ等へ協力願いたい旨の発言があった。

また、次期改訂に向けて検討すべき課題、内容、進め方等について説明があり、今回の改訂においては、特に医療系分野(医・歯等)とのチーム医療推進等の観点から、今後、医療系分野が共通して学ぶべき課題・内容の抽出を行う必要がある等の発言があった。

次いで、今後のコアカリキュラム改訂に向けて意見交換があった。

(2) 新型コロナウイルス対策の薬学 PCR 検査について

市川監事から、迅速・簡便・安全な唾液からの PCR 検査法を開発し、有用性実証のため、現在、コロナウイルス検体を提供できる機関との共同研究を行っているが、今後は検体の保存・運搬、PCR 実施施設の整備などが課題となっているとの説明があった。

次いで井上会長から、下記の者を委員とし、臨時の委員会を設置、課題や具体的な方策等について検討願いたい旨の発言があった。

委員長	後 藤	副会長
委員	中 村	常務理事
〃	灘 井	常務理事
〃	浜 岡	常務理事
〃	堅 田	理 事
〃	越 前	理 事

5. その他

大会パンフレットにより、「第 5 回日本薬学教育学会大会」(Web 開催)が令和 2 年 9 月 12 日(土)、13 日(日)に帝京大学薬学部で開催される旨の報告があった。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、15 時 05 分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和 2 年 7 月 10 日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議 長	井 上 圭 三
(新 会 長)	(押 印 済)

出 席 理 事	堅 田 利 明
(議 事 録 署 名 人)	(押 印 済)

出席監事 富 田 基 郎
(押印済)

出席監事 市 川 厚
(押印済)